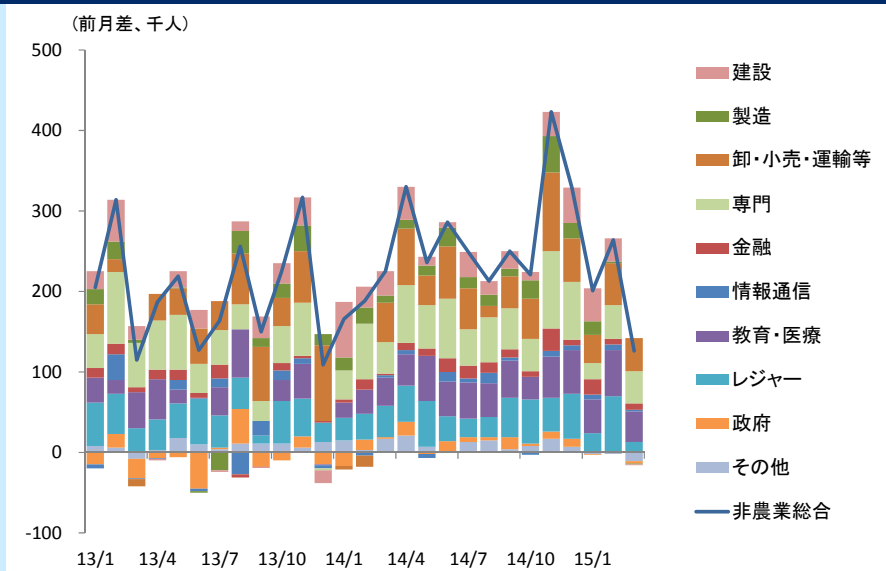


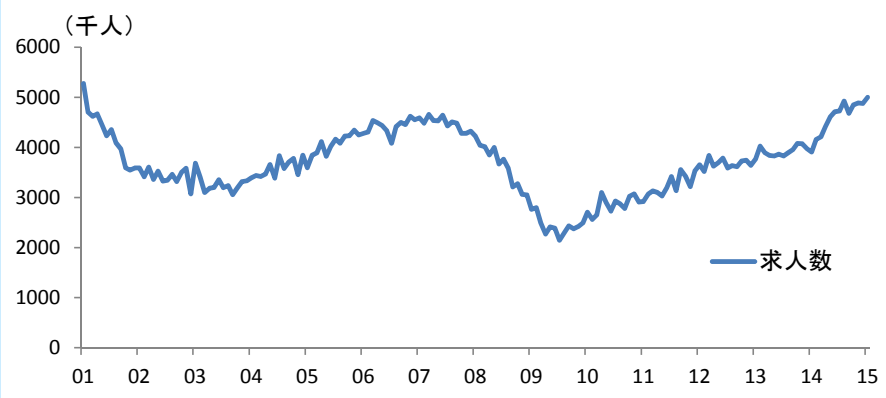
米国：雇用統計（2015年3月）

MRI Daily Economic Points
April 7, 2015

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



図表2 米国求人数



資料：米国労働省

評価ポイント

今回の結果

- 3月の非農業部門雇用者数は、前月差+12.6万人増となり、13ヶ月ぶりに同+20万人を下回った。1月(+23.9万人→+20.1万人)、2月(+29.5万人→+26.4万人)はともに下方修正。ただし、15年1-3月平均で同+19.7万人と増加基調は維持されている。
- 内訳をみると、専門・ビジネス(同+4.0万人)、教育・医療(同+3.8万人)、小売(同+2.6万人)などで増加した一方、原油安により鉱業(同▲1.1万人)で3ヶ月連続の減少となった。また、製造業(同▲0.1%)でも20ヶ月ぶりに小幅減少した。ドル高の輸出への影響などによるとみられる。
- 3月の失業率は5.5%と前月から変わらず。FOMC参加者が想定する長期均衡失業率(5.0~5.2%)に近づく中、ここ数ヶ月は改善ペースがやや緩やかになっている。労働参加率は62.7%と前月(62.8%)から小幅低下した。
- 平均賃金は前年比+1.8%と前月(同+1.7%)から小幅上昇したものの、伸びの鈍い状態が続いている。鉱業(同▲0.19%)、情報通信(同▲0.11%)では伸びがマイナスとなった。

基調判断と今後の流れ

- 米雇用市場は改善傾向を維持しているものの、3月は雇用者数の増加幅が前月から大きく減少した。その背景として、①悪天候による影響や、②14年以降に大幅な増加が続いてきたことの反動など、一時的な要因が指摘されている。
- 新規失業給付申請件数は低い水準で推移しているほか、求人数も金融危機前の水準にまで上昇しており、企業の採用意欲は強い。ドル高や原油安を背景に一部産業で雇用が伸びにくい状況にあるが、内需の拡大傾向が続いていることから、総じて見れば、米雇用市場は改善基調を維持するとみられる。